

# 株主の皆様へ

第97期中間事業報告書

平成14年4月1日から平成14年9月30日まで

To Our Stockholders

The essentials of imaging



MINOLTA

ミノルタ株式会社

The essentials of imaging

[www.minolta.com](http://www.minolta.com)

# The essentials of imaging

ミノルタは、イメージング領域で  
エッセンシャルな(欠くことのできない)  
製品・サービス・ソリューションを提供して参ります。

essential 1

最適品質の画像の提供

提供・提案する  
3つのエッセンシャル

essential 2

快適な使用環境の提供

essential 3

新しい画像活用形態の提案

## 4つの事業領域

### イメージインフォメーション

画像を通じて、ビジネス環境における  
コミュニケーションを支援する

### ビジュアルライフスタイル

画像があふれる  
人間性豊かなシーンを演出する

### アドバンストセンシング

「先進的センシング機能」の提供により、  
産業界における生産性を支援する

### オプトデバイス&コンポーネント

高付加価値な光技術の提供により、  
視覚情報産業の高度化を支援する

## CONTENTS

ごあいさつ	1
第97期中間決算概要	4
会社動向	7
新製品紹介	8
トピックス	12
株式の状況	13
会社概況	14
取締役、監査役及び執行役員	14
株主メモ	14

# ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
ここに当社第97期中間期(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)の営業概況についてご報告申し上げます。

## 当社をとりまく経営環境と営業概況

当中間期の経済環境は、米国ではIT関連事業の低迷に加え、社会不安や大手企業の不正会計の発覚等、景気を下押しする材料が相次ぎ、比較的堅調であった個人消費の伸びも鈍化している状況です。欧州ではドイツにおいて景気の減速が顕著であり、イギリスを除くユーロ圏各国の景気回復のスピードも鈍化しています。またアジア経済では、中国において景気拡大のテンポが速まっております。一方、我が国の経済も出口の見えないデフレ状況が続き、銀行の不良債権処理の遅れや企業倒産の増加懸念等で深刻な不況に直面する状況が続いております。企業収益は一部に改善の兆しが見られ、また設備投資も下げ止まりの状況がある一方、雇用不安などにより個人消費等の伸びも鈍化しつつあり、引き続き大変厳しい状況にあります。当中間期の米ドル及びユーロの為替レートは、前年同期に比べ円安となりました。

このような経済環境の中で、当社は、固定費や調達コスト、在庫の削減等の構造改革を一層加速し、高度情報化、デジタル化社会を見据えた戦略事業に注力するとともに、デジタル製品の開発、販売に経営資源を集中的に投入いたしました。

この結果、当中間期の売上高は1,453億2千6百万円(前年同期比7.8%増)、原価低減による売上総利益率の好転や販売費及び一般管理費の削減などにより、経常利益は53億7百万円、中間純利益は35億4千4百万円となりました。

連結決算につきましては、売上高は2,556億2千4百万円と前年同期比5.8%増、140億2千8百万円の増収となりました。経常利益は66億5千5百万円となり、中間純利益は31億6千9百万円となりました。

なお、中間配当金につきましては、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

事業別の概況は、次のとおりです。

## 【情報機器事業】

複写機分野においては、引き続きデジタル複合機「DiALTA(ディアルタ)シリーズ」のラインアップを拡充させ、高速デジタル機「DiALTA Di551」及び毎分85枚のシリーズハイエンド機「DiALTA Di850」の

2機種を新たに市場投入いたしました。また、好評をいただいているデジタルカラー複合機においては、新製品として、カラー・モノクロともに毎分31枚の高速出力を実現した「DiALTA Color CF3102」や「DiALTA Color CF2002」を投入いたしました。

プリンタ分野においては新規チャネル開拓による売上拡大を図り、Minolta-QMSブランドのカラープリンタ「magicolor 2200シリーズ」、モノクロプリンタの新製品「PagePro 1200/1250シリーズ」「PagePro 9100」によって、欧米市場を中心にシェアを伸ばしました。OEMビジネスにおいても、売上の拡大を図りました。9月には、カラーレーザープリンタにおいて、世界最小、最軽量(発表時)を実現した新製品「magicolor 2300DL」を発表し、順次出荷を開始しております。

これらの売上拡大施策と並行して、調達・生産のコストダウンや販売費及び一般管理費を削減し、売上総利益率・営業利益率の向上に努めました。

この結果、当中間期の情報機器事業の売上高は1,005億3百万円(前年同期比3.3%増)となりました。なお、連結売上高は1,866億5千8百万円(前年同期比2.7%増)となっております。

## 【光学機器事業】

カメラ分野は、昨年度に引き続きデジタルカメラの売上高が大幅に拡大いたしました。有効画素数5.0メガピクセル、光学7倍ズームレンズを搭載したDiMAGEシリーズの最上位機種「DiMAGE 7」の後継機「DiMAGE 7i」、更に限定生産の「DiMAGE 7Hi」を市場投入し、加えて4.0メガピクセルの「DiMAGE F100」を発売いたしました。また光学3倍デジタルカメラにおいて世界最小、最軽量、最薄型(発表時)のスタイリッシュコンパクトが好評を博した「DiMAGE X」はヨーロピアン・デジタルコンパクトカメラ・オブ・ザ・イヤー2002-03を始めとする国内外の賞を獲得するなど、高い評価を頂きました。ラインアップの充実により、デジタルカメラの販売は台数、売上金額ともに前年比で大幅に拡大いたしました。

一方フィルムカメラでは、一眼レフの新製品「Sweet L」、コンパクトカメラの新製品「Capios 130S」、海外向け新製品「Zoom 80」を発売するなど、フィルムカメラ市場においても売上の維持拡大に努めました。

光システム分野では、デジタルプロジェクタやデジタルミニラボ用光学ユニット事業とハードディスク用ガラス基板事業を中心に売上に貢献いたしました。

計測機器分野では、液晶用カラーアナライザ「CA-210」と各種ディスプレイ用カラーアナライザ「CA-100Plus」に加え、非接触3次元デジタイザ「VIVID 910」を新たに発売することで、産業用計測機器の販売拡大に努めました。

この結果、光学機器事業の売上高は448億2千3百万円(前年同期比19.5%増)となりました。なお、連結売上高は568億円(前年同期比12.3%増)となっております。

## 今後の見通しと課題

世界景気については、経済・社会情勢の変化により欧米とも予断を許さない不透明な状況が続き、国内においては依然厳しい雇用状況、景気回復の遅れが予想されます。当社の事業領域である情報機器事業・光学機器事業においても、厳しい事業環境は当面続く見通しです。

このような環境のもと、当社が勝ち抜くためには成長に向けての経営革新を進めると共に、技術力・コスト競争力の更なる強化が急務と考えております。具体的には中期的な経営戦略に重点アクション項目として挙げております「事業競争力の強化」、「収益力の強化」、「経営の質的向上」の達成に邁進し、強固な経営体質と一層の株主価値の増大を目指します。

平成14年度通期の業績は、売上高2,900億円(前期比6.6%増)、経常利益100億円、当期純利益60億円、連結業績では売上高5,250億円(前期比2.8%増)、経常利益130億円、当期純利益100億円を目標としております。

なお、期末配当金につきましては、現時点では未定とさせていただきますが、早期復配を喫緊の課題といたしまして、より一層の努力を重ねて参ります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月

取締役社長

太田義勝



## 単 独 決 算

(百万円未満切り捨て)

### 中間貸借対照表

単位：百万円

科 目	当中間期 (平成14年9月30日)	前 期 (平成14年3月31日)
流 動 資 産	149,522	159,077
固 定 資 産	143,788	146,115
資 産 合 計	<b>293,311</b>	<b>305,193</b>
流 動 負 債	158,154	160,921
固 定 負 債	58,315	69,961
負 債 合 計	<b>216,469</b>	<b>230,883</b>
資 本 金	25,832	25,832
資 本 剰 余 金	40,325	51,162
利 益 剰 余 金	3,544	10,837
土 地 再 評 価 差 額 金	8,516	8,516
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	1,354	359
自 己 株 式	22	5
資 本 合 計	<b>76,841</b>	<b>74,309</b>
負 債 及 び 資 本 合 計	<b>293,311</b>	<b>305,193</b>

### 中間損益計算書

単位：百万円

科 目	当中間期 (平成14年4月1日～9月30日)	前年中間期 (平成13年4月1日～9月30日)
売 上 高	145,326	134,782
売 上 原 価	111,925	106,354
売 上 総 利 益	<b>33,401</b>	<b>28,428</b>
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	23,740	27,849
営 業 利 益	<b>9,660</b>	<b>579</b>
営 業 外 収 益	2,660	1,595
営 業 外 費 用	7,013	6,973
経 常 利 益	<b>5,307</b>	<b>4,798</b>
特 別 利 益	245	325
特 別 損 失	593	22,413
税 引 前 中 間 純 利 益	<b>4,959</b>	<b>26,886</b>
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	79	133
法 人 税 等 調 整 額	1,335	2,096
中 間 純 利 益	<b>3,544</b>	<b>24,923</b>
前 期 繰 越 利 益		5,654
中 間 未 処 分 利 益	<b>3,544</b>	<b>19,268</b>

## 連 結 決 算 (百万円未満切り捨て)

中間連結貸借対照表

単位：百万円

科 目	当中間期 (平成14年9月30日)	前 期 (平成14年3月31日)
流 動 資 産	251,885	263,951
固 定 資 産	154,219	163,295
資 産 合 計	<b>406,104</b>	<b>427,247</b>
流 動 負 債	280,181	286,548
固 定 負 債	77,181	92,731
負 債 合 計	<b>357,362</b>	<b>379,279</b>
少 数 株 主 持 分	<b>1,579</b>	<b>1,465</b>
資 本 金	25,832	25,832
資 本 剰 余 金	40,325	51,198
利 益 剰 余 金	19,095	33,149
土 地 再 評 価 差 額 金	8,516	8,516
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	1,379	367
為 替 換 算 調 整 勘 定	7,013	5,523
自 己 株 式	22	5
資 本 合 計	<b>47,162</b>	<b>46,502</b>
負債、少数株主持分及び資本合計	<b>406,104</b>	<b>427,247</b>

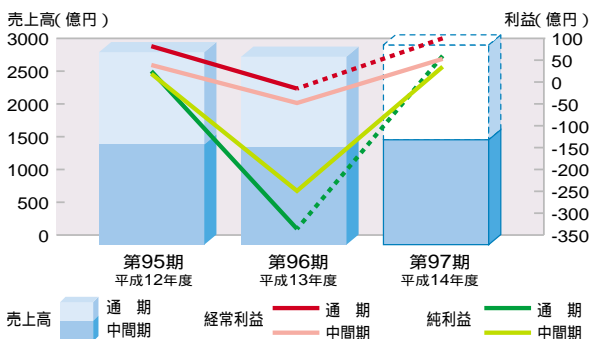
中間連結損益計算書

単位：百万円

科 目	当中間期 (平成14年4月1日～9月30日)	前年中間期 (平成13年4月1日～9月30日)
売 上 高	255,624	241,596
売 上 原 価	145,090	141,997
売 上 総 利 益	<b>110,534</b>	<b>99,599</b>
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	97,535	102,531
営 業 利 益	<b>12,998</b>	<b>2,932</b>
営 業 外 収 益	3,804	2,445
営 業 外 費 用	10,147	11,658
経 常 利 益	<b>6,655</b>	<b>12,145</b>
特 別 利 益	191	420
特 別 損 失	1,073	9,857
税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益	<b>5,773</b>	<b>21,583</b>
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,984	875
法 人 税 等 調 整 額	926	405
少 数 株 主 損 失	306	136
中 間 純 利 益	<b>3,169</b>	<b>22,728</b>

## 売上高・利益の推移

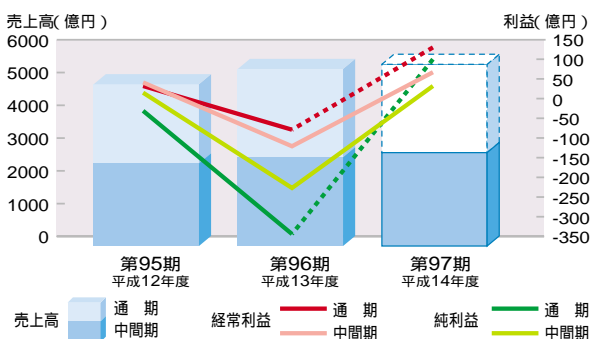
### 単 独



	第95期 平成12年度		第96期 平成13年度		第97期 平成14年度	
	中間期	通 期	中間期	通 期	中間期	通 期
1株当たりの 中間(当期) 純利益	6円84銭	8円84銭	88円95銭	119円90銭	12円65銭	21円42銭
総資産 (百万円)	295,461	312,314	279,387	305,193	293,311	—
純資産 (百万円)	100,876	100,595	72,098	74,309	76,841	—

(注)平成14年度通期の売上高、経常利益、当期純利益、及び1株当たりの当期純利益は予想です。

### 連 結



	第95期 平成12年度		第96期 平成13年度		第97期 平成14年度	
	中間期	通 期	中間期	通 期	中間期	通 期
1株当たりの 中間(当期) 純利益	5円48銭	11円16銭	81円11銭	122円59銭	11円31銭	35円70銭
総資産 (百万円)	407,255	456,250	420,948	427,247	406,104	—
純資産 (百万円)	73,947	71,194	44,661	46,502	47,162	—

(注)平成14年度通期の売上高、経常利益、当期純利益、及び1株当たりの当期純利益は予想です。



### 武漢新工場が稼動開始

武漢ミノルタ(武漢美能達奔公機器有限公司)が、中国武漢市の経済開発区に新工場を建設し、7月17日より生産を開始致しました。

8月29日には湖北省長、武漢市長等の政府関連機関の要人や主要取引先を招いて開所式(竣工式)を開催しております。

新工場建設の狙いは、今後の生産の主軸となる高精度のデジタル機生産に対応し得る環境を確保することや、今後の中国市場の拡大を視野に入れた、より生産能力の高い設備を整える事を意図しております。今後は中国国内向け複写機の生産機能拡充に合わせて、更なる販売網の充実に努め、同市場におけるシェアNO.1のポジションをより強固なものにしていきます。



武漢新工場

### ミノルタグループのコンプライアンス体制について

当社では、1997年に「ミノルタ倫理綱領」を制定し、高い倫理観をもって事業活動を展開してまいりました。しかし、昨今の他企業による不祥事の続発に鑑み、より徹底した対応が必要との認識のもと、ミノルタグループ全体を視野に入れたコンプライアンス体制の充実を進めております。法令のみならず、企業倫理、社内規範の遵守の徹底を経営トップが率先垂範して実践することはもとより、社員ひとり一人に対する“コンプライアンスは自らの役割である”との徹底した意識付けや教育にも積極的に取り組んでおります。

当社グループは、今後もコンプライアンスの徹底を通じて、企業価値向上を図り、株主の皆様を始めとしたステークホルダーの方々の信頼を得られるよう努めてまいります。

## 情報機器

### 「DiALTA<sup>®</sup> Color (ディアルタカラー) CF3102/CF2002」を発売

オフィスのカラードキュメント化を促進する、ネットワーク対応、高速デジタルフルカラー複写機です。

米国“Better Buys for Business”の“2002年 Editors Choice”と英国“BERTL”の“5 Star Award”を受賞した「DiALTA Color CF2001」を更に進化、発展させ、フルカラー複写機の課題であった高速出力、コストパフォーマンス、使い易さを更に大幅に向上させた「DiALTA Color CF3102」と「DiALTA Color CF2002」をシリーズで発売致しました。



CF3102

CF2002

#### 特長

- ・カラー・モノクロにとらわれない高速出力および、原稿混載時の高速出力
- ・紙文書を効率的な情報資産にできるネットワークスキャナ機能<sup>1</sup>
- ・デスクから高速出力できるネットワークプリンタ機能<sup>1</sup>
- ・製本処理まで、必要な形でカラー出力を可能にする高度なフィニッシング機能<sup>2</sup>
- ・600dpiX1800dpi相当の高解像度出力と、オイルレス重合合法トナー、MACCS<sup>3</sup>による優れた画像表現

1 オプションのプリンタコントローラCN3101e装着時

2 オプションのフィニッシャーFN-8装着時

3 MACCSはMinolta Advanced Color Conversion Systemの略

### 「DiALTA<sup>®</sup> Di850」を発売

POD<sup>1</sup>を実践する、ネットワーク対応、高速デジタル複写機です。

ハイエンド機としての生産性を大幅に向上。毎分85枚(A4ヨコ)の高速出力を実現しただけではなく製本・装丁までを高速自動一括処理する高度なフィニッシング機能<sup>2</sup>にも対応し、プリントショップや企業の印刷室で求められるPOD<sup>1</sup>需要にも対応した「DiALTA Di850」を発売致しました。



1 プリント・オン・デマンドの略  
2 オプション装着時

## 「magicolor®(マジカラー)2300 DL」を発売

世界最小・最軽量<sup>1</sup>で重合法トナーを採用したA4高画質カラーレーザープリンタです。現在ミノルタはA4カラーレーザープリンタ市場においてトップグループの地位を占めておりますが、この地位の更なる強化に向けて市場ニーズである“コンパクト化”、“高画質化”、“低価格化”、“高性能化”を実現した「magicolor 2300DL」を発売致しました。

### 特長

- ・世界最小・最軽量の本体設計<sup>1</sup>
- ・重合法トナー及び2400dpiX600dpiによる高解像度・高画質出力
- ・充実したネットワーク対応と管理機能
- ・カラー毎分4枚/モノクロ毎分16枚<sup>2</sup>の高速出力
- ・両面プリント対応を始めとする生産性に優れたペーパーハンドリング
- ・ユーザーメンテナンスの簡易性を実現

1 カラーレーザープリンタにおいて(2002年9月18日現在)

2 A4同一原稿連続片面プリント



## 「PagePro(ページプロ)1250E」を発売

A4サイズ16枚/分出力<sup>1</sup>、高解像度1200dpiのモノクロレーザープリンタです。中小規模のオフィスやSOHO(Small Office Home Office)でのプリント出力に最適な、高速16枚/分の出力と最高解像度1200dpiのA4モノクロプリンタ「PagePro 1250E」を発売致しました。

### 特長

- ・A4サイズ16枚/分の高速印刷<sup>1</sup>
- ・1200dpiX1200dpiの高解像度出力に対応
- ・IEEE1284/パラレルインターフェース、USB(1.1)インターフェースを標準搭載
- ・PostScript<sup>2</sup>、PCL6に標準対応
- ・「Watermark」や「Proof and Print」など多彩な機能、ペーパーハンドリングを搭載
- ・国際エネルギースタープログラムとグリーン購入法に適合

1 A4同一原稿連続片面プリント、600dpi出力時

2 PostScriptはアドビシステムズ社の登録商標です。



### 光学機器

#### 「DiMAGE<sup>®</sup>(ディマージュ)Xi」を発売

「DiMAGE X」を更に進化させ、世界最小、最軽量、最薄型<sup>1</sup>、で世界最速の起動時間<sup>2</sup>を始めとする快適レスポンスを実現した、3.2メガピクセルの光学3倍ズームデジタルカメラです。

今回発売した「DiMAGE Xi」は「DiMAGE X」と同サイズのコンパクトボディに3.2メガピクセルのCCDを搭載し、部分拡大や大判サイズでの出力にも十分



応える高画質を実現しました。

また電源ONから撮影スタンバイOKまで約1.2秒という世界最速の起動時間<sup>2</sup>を始めとする快適レスポンス、その他数々の新機能を追加致しました。

- 1 光学3倍ズームデジタルカメラにおいて  
(2002年9月1日現在)
- 2 光学ズームデジタルカメラにおいて  
(2002年9月1日現在)

#### 「DiMAGE 7Hi」を発売

50メガピクセル、光学7倍ズームを搭載し、高解像度の高速連続撮影を実現した“DiMAGE(ディマージュ)”シリーズのデジタル一眼レフ最上位機種です。高い評価を得ている「DiMAGE 7i」の基本性能に加えて、64MB SDRAM搭載により実現した高速連続撮影機能等で、高画質モードにおいても様々な撮影シーンや撮影意図に快適、的確に応える性能を備えました。

その他、ハイアマチュアからプロフェッショナルまで広くご使用いただける仕様を搭載し、撮影道具として“DiMAGE”シリーズの最高峰にふさわしい高い性能を実現しております。



#### 「DiMAGE F100」を発売

二つの「世界初」<sup>1,2</sup>を実現した4.0メガピクセルの光学3倍ズームデジタルカメラです。動く被写体に自動ピントに対応する「自動追尾機能搭載のエリアAF<sup>1</sup>」と、撮影状況をカメラが自動判別する「フルオートデジタル撮影シーンセクター<sup>2</sup>」といった、二つの世界初の先進オート機能を搭載。初心者から中・上級者まで、あらゆるユーザー層のニーズに応えることができます。



- 1 レンズ一体型デジタルカメラにおいて
- 2 デジタルカメラにおいて

## 「-Sweet( スウィート) L」を発売

世界最小・最軽量<sup>1</sup>、クラストップレベル<sup>2</sup>のAFスピードを実現したAF一眼レフカメラです。

- 1 フラッシュ内蔵35mmレンズ交換式一眼レフにおいて(2002年9月1日現在)
- 2 希望小売価格7万円未満の35mmレンズ交換式AF一眼レフカメラにおいて(2002年9月1日現在)(当社試験条件による)



## 「CAPIOS<sup>®</sup>(カピオス)160A」を発売

世界初の高性能エリアAFを搭載した4.3倍ズームコンパクトカメラ



### 計測機器

## 「酸素飽和度モニタPULSOX(パルソックス)-2」を発売

在宅医療にも最適な、コンパクトで簡単操作のパルスオキシメータです。

採血することなく、人体の動脈血中に含まれる酸素の量(動脈血酸素飽和度)と脈拍数を連続的に測定できる、軽量・コンパクトなプローブ・本体一体型医療用測定機器です。本製品は医療機関内における使用だけでなく、往診・訪問看護時の使用、また最近急速に普及している在宅酸素療法を受けている方にも、簡単に使用できるよう開発されたものです。



## デジタル露出計「オートメーター F」を発売

定常光・フラッシュ光アナライズ機能を搭載した普及タイプのデジタル露出計です。オートメーター Fはアマチュアからプロまで幅広く愛用されておりますが、この度後継機としてその操作性・機能性に加え、オートメーターとしては初めて分離測光方式によるアナライズ(フラッシュ光量比表示)機能、反射光測定時にシャドー・ハイライト部を基準に演算する露出演算機能など、ユーザーの作画意図を反映しやすくなっております。

## 数々の権威ある賞を受賞

「DiALTA Color CF3012」、「DiALTA Color CF2002」が  
本年度グッドデザイン賞を受賞

グッドデザイン賞は(財)日本産業デザイン振興会により審査・授与される賞で、  
デザイン面と品質面、共に優れた商品に与えられる“信頼の証”として広く生  
活者の方々に親しまれています。

今回の受賞は「高速・鮮明画質の性能に加え省スペースで使いやすい操作性  
を実現した点、特に角度調整可能な操作パネルや、見易さを改善した操作部  
文字表記など、多くの人に対して使いやすいものとする為にユニバーサルデ  
ザインを追求した結果が評価された」ものと考えられます。



CF3102



CF2002

「DiIMAGE X」が数々の栄誉ある賞を受賞

“カメラグランプリ2002”カメラ記者クラブ特別賞を受賞(日本)

TIPA<sup>1</sup> AWARDS 2002 - 2003の“BEST DESIGN”受賞(欧州)

EISA<sup>2</sup>の“ヨーロッパ・デジタルコンパクトカメラ・オブ・ザ・イヤー  
2002 - 2003”を受賞

(財)日本産業デザイン振興会の“2002年  
度グッドデザイン賞”を受賞

1 TECHNICAL IMAGE PRESS ASSOCIATION

2 European Imaging and Technical Association



「DYNAX 4」(国内名称「Sweet L」)が

EISAの“ヨーロッパ・カメラ・オブ・ザ・イヤー 2002-2003”を受賞



## 環境への取り組み

ミノルタ販売、ほか国内販売関係会社の50事業所・営業所において  
環境に関する国際規格「ISO 14001」の認証を取得

当社は1992年に「ミノルタ地球環境憲章」を制定し、グループ全体で環境保  
全に取り組んでおります。既にミノルタの全事業所、及び国内外の主要生産関  
係会社における認証取得を完了し、現在は販売会社やサービス会社、物流会  
社への認証取得範囲の拡大に取り組んでおります。今回の取得範囲はミノル  
タ販売ほか国内販売関係会社の内、従業員数で52%にあたり、残り全ての事  
業所・営業所も2003年6月までに取得する予定です。

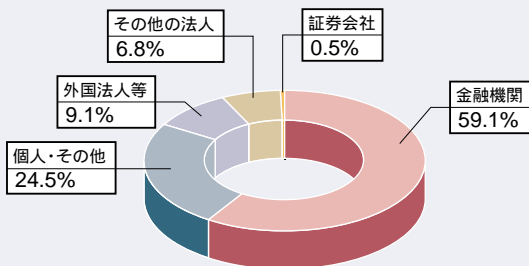
## 株式の状況(平成14年9月30日現在)

発行済株式総数…………… 280 207,681株  
 株主数…………… 30 660名  
 大株主(上位10名)

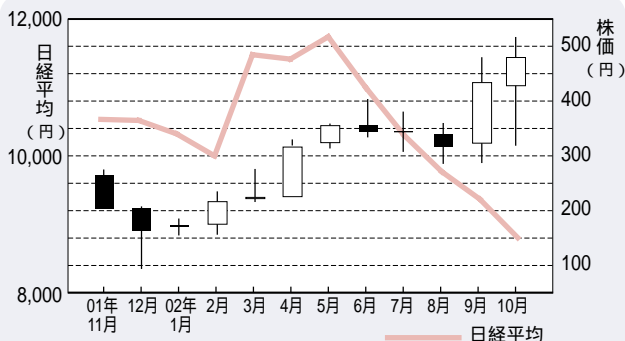
株主名	所有株式数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	16,276	5.8%
大同生命保険株式会社	14 558	5.2%
株式会社三井住友銀行	13 841	4.9%
株式会社あさひ銀行	13 788	4.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	11 108	4.0%
株式会社みずほコーポレート銀行	10 728	3.8%
日本生命保険相互会社	10 000	3.6%
株式会社百十四銀行	8 840	3.2%
UFJ信託銀行株式会社	7 677	2.7%
ニッセイ同和損害保険株式会社	6 881	2.5%

フィデリティ投信株式会社から、平成14年10月11日付で提出された大量保有報告書により平成14年9月30日現在で22,743千株(持株比率8.1%)を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として中間期末時点における所有株式数の確認ができませんので、上記表には含めておりません。

### 所有者別分布状況(所有株式数比率)



### 株価と日経平均の推移(東京証券取引所)



(C)日本経済新聞社

## 会社概況(平成14年9月30日現在)

本 社 〒541-8556 大阪市中央区安土町二丁目3番13号 大阪国際ビル  
東京支社 〒108-8608 東京都港区高輪二丁目19番13号 NS高輪ビル  
資本金 25,832百万円  
従業員 3,452名

## 取締役、監査役及び執行役員(平成14年9月30日現在)

### 取締役

取締役社長 太田 義勝  
取締役 東山 善彦  
取締役 田嶋 紀雄  
取締役 清水 紀克  
取締役 藤井 博  
取締役 石原 俊昭  
取締役 河野 盾臣  
取締役 武木田 義祐  
取締役 本藤 正則  
取締役 大場 勝

上記取締役10名は執行役員を兼務  
しております。

### 監査役

常勤監査役 納谷 幹夫  
常勤監査役 河野 明雄  
監査役 大野 一成  
監査役 春名 公雄

### 執行役員

執行役員 関 誠之  
執行役員 板東 正男  
執行役員 古川 博  
執行役員 石河 宏  
執行役員 大浦 三治  
執行役員 得丸 祥  
執行役員 木谷 彰男  
執行役員 岡村 秀樹  
執行役員 山名 昌衛

監査役 大野一成・春名公雄の両氏は  
「株式会社の監査等に関する商法の  
特例に関する法律」第18条第1項に定  
める社外監査役です。

## 株主メモ

- ・決算期 3月31日
- ・定時株主総会権利行使株主  
及び利益配当金支払株主確定日 3月31日
- ・中間配当金支払株主確定日 9月30日
- ・名義書換代理人 UFJ信託銀行株式会社
- ・同 事務取扱場所 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
(お問い合わせ先) UFJ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部  
TEL(06)6229-3011
- ・同 取次所 UFJ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、

次のUFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

TEL(通話料無料)

0120-24-4479(本店証券代行部)

0120-68-4479(大阪支店証券代行部)

インターネットホームページ

<http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

- ・公告掲載新聞

日本経済新聞



古紙配合率100%の  
再生紙を使用しています



環境に配慮して大豆油インキ  
で印刷しています